



NO.462

R8年2月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

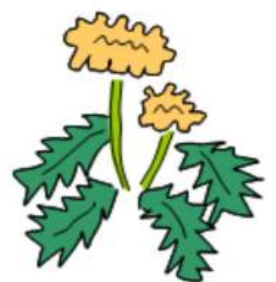
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「今後の福祉の動向と

政権に期待すること」

施設長 木下昭一

日本列島の南北に長く伸びる地形は、地域ごとにまったく異なる気候を生み出しています。北の地方では2mを超える積雪が見られる一方で、四国や九州の一部では降雨（降雪を含め）が乏しく、ダムの貯水率が著しく低下するなど、同じ日本とは思えない現象が同時に起こっているのも、この地形と気候の多様性が背景にあるのかもしれない。こうした自然環境の違いは、地域社会の課題や行政の対応にも影響を与えつつ、私たちの暮らしと密接に結びついています。このように地域差を抱える日本ですが、先日行われた衆議院議員選挙では、今後の福祉現場の動向を考える上でも重要な意味を持つ、政権与党の歴史的な

勝が大きな転換点となりました。選挙結果を受け、国政の方向性

について様々な議論が交わされており、報道では与野党の勢力図の変化に加えて、議員定数削減といった政治改革の論点も注目されつつあります。国会の機能強化や政治への信頼回復を目指す上で、これらの制度改革にどう向き合うのかは、今後の政権運営における重要な焦点となるでしょう。

そのような状況の中で、福祉の現場に携わる者としては、こうした政治改革の議論と並行して、障がい者施策の行方が気になるところです。特に、施設職員の給与や報酬改定は、現場の安定と共にサービスの質に直結する重要なテーマとなります。処遇改善の必要性は以前から指摘されており、改善案は示されていますが、今後の更なる処遇

の再検討を期待しています。

一方で、施策決定の効率化や若い世代の政治への参画が促されれば、社会保障政策の優先順位づけにも新たな視点が生まれる可能性があるように思います。また、報道では高市総理の今後の政権運営に関する論点も取り上げられています。内閣としてどの政策を優先し、どのように社会保障制度を再構築していくのかは、国民生活に大きな影響を与えます。経済対策や安全保障と並んで、福祉分野の持続的な継続を確保するための施策として、どのような方向性が示されるのかに期待しています。また少子高齢化が進む中で、障がい者福祉を含む社会保障制度を地域でどう支えていくのかは、避けて通れない課題です。

施設の現場では、利用者さんの生活の質を守りながら、事業

継続のための経営努力も求められています。人材確保の難しさ、物価高騰による運営費の増加、制度改定への対応など、日々の課題は尽きません。背景には行政や政治の効率化を求める社会の声がありますが、福祉現場においても同様に、限られた資源を最大限に活かす工夫が求められています。

それでも、地域に根ざした施設として、利用者さんと家族の方々の安心・安全を守り続ける為には、行政との対話や地域との連携を丁寧に積み重ねていくことも重要だと認識しています。私たちが大切にしてきた「施設・地域で暮らす人を支える」という姿勢は、揺らぐことなく継承していく所存です。

今回の選挙の結果を受けて、より福祉の現場に従事する人たちに、新たな節目となることを願っています。春を待つ季節のように、変化の中にも静かな希望を見い出しながら、次の一歩を着実に踏み出していく準備を進めていきたいと考えています。



「新年を迎えるにあたり」

新年を迎え、早くも一か月が経過しました。新年にあたり、「今年はどうような一年にしようか」「こんな一年にしたい」と思いを巡らせ、一年の抱負を立てられた方も多いのではないのでしょうか。私自身も熟考の末、一年の抱負を定め、現在はそれが“絵に描いた餅”とならないよう、日々意識しながら取り組んでいるところです。“人間は考える葦である”という言葉があります。フランスの哲学者パスカルの言葉で「人間は自然の中ではか弱く、風に揺れる葦のように無力だが、考える力を持つことで他の存在にはない偉大さを持つ」という意味があるようで、現在では、単に“考える力がある”だけではなく、その“考える”ことによって、その場しのぎではなく、未来を見据え、自分を成長させることが重要であると解釈されることもあるようです。私自身、日々の業務において目の前の課題に意識が向き、その場しのぎで考えてしまうことも少なくありません。しかし、施設や利用者さんのより良い未来のためには、先を見据えて考え、自身の課題を自覚し、一つひとつ克服していく姿勢が必要だと感じています。今年一年は、そのような“考える葦”であり続けられるよう、常に考え抜く姿勢を大切にしていきたいと思います。

副主任 清田 健士郎

「新年の誓い」

1月14日、今年度3回目となる2班レクリエーションがありました。晴天に恵まれ気温もこの時期としてはやや高めの過ごしやすい気候で最高のレク日和。山鹿にあるあんずの丘で絵付け体験と食事をした後、菊池神社へ初詣に行ってきました。先ず、伝承工芸館でマグカップや皿など絵付けする器を選び、クレヨンや絵の具で絵付けを体験しました。独りで直ぐに手を動かし絵付けを始める方、スタッフが見せたイラスト案を見ながら筆を進める方、スタッフの手添えで一緒に色を付けていく方など、思い思いに作業を進めていく思いの外ゆったりとした静かな空間が流れていました。日頃、あまり見られない新しいことに挑戦する真剣な眼差しの利用者さん達が新鮮でした。初詣では、年男の複数名の利用者さん方を先頭にお参りして来ましたが、多くの利用者さん達は会話が難しく新年に何を望まれているのか思いを巡らすことしか出来ませんが、日々のやり取りや様子からニーズを汲み取り、一つでも多く実現していけるように全スタッフ一致団結で取り組んで行きたいと心を新たに作る時間となりました。ご家族や関係者の皆様、今年もどうぞよろしくお願い致します。

副主任 杉本 安代



「年男、二月に思うこと」

二月を迎え、暦の上では春が近づいてまいりましたが、寒さの厳しい日が続いております。園内では今のところインフルエンザ等の大きな流行もなくホッとしているところですが、今後も状況を注視しつつ、適切な感染対策を継続してきたいと思います。

先日、とある保護者様との会話の中で「昭和は輝いていた」というお話を伺いました。私は昭和を実際に経験しておりませんが、人と人とのつながりや、前向きなエネルギーに満ちていた時代だったのではないかと、なんとなくその思いが伝わってくる気がしました。

また二月は次年度に向けた準備が始まる時期でもあります。私自身、年男として干支である「午（馬）」の持つ前向きに進む力にならい、とはいえ走り過ぎず、息継ぎもしながら一年を進んでいきたいところです。昭和の時代に負けないように、前向きに、利用者様一人ひとりの歩みを大切にしながら、次の一年へとつなげていきたいと考えております。

支援員 田淵 晃一

「焦らずに」

4班のAさんは去年から入所になりました。生活環境が大きく変わって戸惑うことや初めての経験が多かったと思います。班の作業や三気の里の生活にも少しずつ慣れてほしいと思っていましたが、私と接する時に戸惑っている様子が気になっていました。振り返ると私の態度や声かけがAさんにとってきつく感じていたのかもしれない。そこでAさんのことを見守り、かける言葉に労いを意識するようにしたところ、少しずつ表情が変わって、私の肩を触れて何かを訴えようとされるなど、私への反応も少しずつ変わってきたように思います。まだまだ気づいてあげることができていないことは多いと思います。三気の里でよかったと思ってもらえるよう、焦らずに無理せず一緒に考えていけたらと思います。

副主任 相馬 敦

「趣味は生きがい」

Aさんの趣味について話をさせていただきます。Aさんはプロレスが好きな方で、普段から「プロレスを観にいきたかね～」「〇〇に会って見たかね～」とスタッフによく話をされています。昨年の年末には熊本で行われたプロレス観戦に行き、選手の登場する時には「〇〇頑張れ～、負けるなよ～」と応援もされています。約3時間ではありましたが、とても満足げな様子でした。翌日には、前日のプロレスの話をスタッフに何度も何度も話をしていました。普段の生活、作業場面では見せない、楽しそうな表情や選手を応援する熱さも伝わりました。Aさんにとって、プロレスは「生きがい」なのだと改めて感じました。Aさんは今年の6月で51歳を迎えます。令和8年はまだ始まったばかりです。今年の年末まで約11カ月。それまで病気をせず、元気な姿で、今年の年末もプロレスを観に行けるよう健康で過ごせるように、一緒に精進して参ります。

副主任 松村 雄一





「チャレンジ企画」

支援員 金丸 綾子

GHひだまりでは、月に一度「チャレンジ企画」として利用者の方が担当になり、やってみたいことを企画しています。

「料理をしたい」「折り紙をしたい」「デザートを作りたい」「カラオケに行きたい」「映画を観たい」等々、令和7年度もスタッフと一緒にさまざまな計画をしました。

今年度最後の企画は、新年会の外食です。イタリア料理で、ハンバーグ、パスタ、リゾットの中から好きな料理をしっかりと選ばれています。

当日は、日頃の日課の流れと違いましたが、出かける時間までに準備OK、出発です！車内でお喋りも弾み、ワクワクされています。

いよいよ食事会が始まると、少しでも緊張した表情が見られましたが、美味しい料理を頼張

ると笑顔が見られ、和やかな食事会になりました。せっかくなので今年の目標をたずねると、「健康ですごしたい」「仕事を頑張りたい」とのじゅー！

令和8年もチャレンジ企画を実施できるよう、利用者の方の楽しみを増やしていけるよう、そんな1年にしていきたいです。



療育雑記

「伝えるって、難しい!」

支援課長 岩田 幸児

人と人とのコミュニケーションの大切な事柄でもある、「人に物事（意思や想い、考え）を伝えること」。簡単なようでもあり、とても難しく感じる事柄でもあります。

ことわざにある「阿吽の呼吸」や「一を聞いて十を知る」のように、物事の一端を見たり聞いたりただで、相手の言いいたいことや考えていることを理解し、その先にある物事を予測して行動できる。このような場合は、伝える側も伝えられる側もスムーズに物事を進めることが出来るでしょう。

逆に、同じことを繰り返し伝えても、中々伝えたいことが伝わらないこともあります。この場合は、伝える側も伝えられる側も、物事がスムーズに進まずストレスを感じてしまうこともあるのではないのでしょうか。

また、その伝達手段も様々で、

会話などの言葉での伝達や、文書などの紙媒体を使用した文字での伝達、SNS（LINEなど）を使用した伝達の仕方もあると思います。

どの伝達手段にも、メリット・デメリットがあると思いますが、個人的には直接顔を見て会話する中で伝えることが、最も伝わりやすいと感じています。

顔を合わせて伝えることのメリットは、相手の反応を確認しながら伝えられることだと思います。伝える相手の反応を見ながら、伝わっているか伝わっていないかを感じ、伝わっていないようであれば、伝え方を変えられる。これは、利用者さんの支援にも共通することだと思います。支援する私たちが、伝えようとしていることが伝わっているか？ 利用者さんの反応を見ながら判断し、伝わっていないようであれば、支援の仕方を変えて伝える必要があります。また、伝える相手が必要としていることか否かを感じることができるとも、顔を合わせ関わることの大きなメリットであるとも思います。

三気の里のような入所施設は365日24時間、常に稼働し、利用者の皆さんの支援をしています。不規則な勤務形態の支援員間では、特に情報の共有、伝達は一番と言ってもいい程大切な事柄だと言えます。しかしながら、その不規則な勤務形態が故に、数日顔を合わせない支援員がいることも稀ではありません。だからこそ、情報や認識の共有は重要になってきます。

三気の里でも、日誌や申し送りなどの書面、SNSを使用した情報共有をしています。情報を受け取る側の理解や認識、ちょっとした言葉のニュアンスの違いにより、情報を発信する側の意図が十分に伝わっているのかと感ずることがあります。

前述した「阿吽の呼吸」や「一を聞いて十を知る」は、共通した情報や認識を持っているからこそ成立するものだと考えます。その共通した認識を持つためには、同じ時間や環境、空間、緊張感、臨場感を共有すること。そしてそこで感じた物事の必要性や重要性を確認し合う機会を

持つことが必要だと思っています。

だからこそ顔を合わせて、コミュニケーションがとれる機会を大切にしていかなければいけないと思います。そのためには、如何に時間を効率よく使い、伝達したいことを上手く伝えられるかを考えておく必要があると思っています。

働きやすさと良好なコミュニケーションは、密接に関連していると言われています。働き方改革、つながらない権利、ライフワークバランス等々、働く側の権利を十分に尊重することも大切です。その上で、支援員間でしっかりとしたコミュニケーションを図り、大切な情報を共有し、利用者さんの支援をすることが、皆さんの安心と快適な生活を支えることに繋がっていくと思っています。

時代の変化に合わせて様々なことが変化していく中でも、伝えるべきことを、しっかりと伝えるように伝えられるようにしていきたいと思っています。



2月スケジュール

06(金) 芸術クラブ
10(火) 苦情報告会
13(金) ゴールドクラブ
14(土) パラ駅伝(えがお健康スタジアム)
イベント食
17(火) 誕生会
18(水) 4班レクリエーション
5班レクリエーション
19(木) 協力医来診

20(金) 歯科研修
BeTREEレクリエーション
24(火) グループホーム避難訓練
25(水) 三気の里避難訓練
26(木) リハの日
28(土) 保健師巡回・eスポーツ
毎週月曜日 訪問理容サービス
毎週水曜日 BeTREE役場販売
BeTREE
＜営業時間＞9:30～17:30



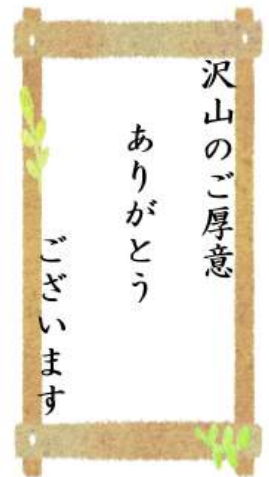
berreeJ14

井上 優様
金森 保様
水田 妙子様
中嶋 久枝様
島津 眞一様
井上 律子様
千田 英文様
小牧 博則様
坂梨 清美様
米村 秋江様
田中 満子様
渡邊 正司様
米田 孝一様
松村 俊介様
中村 秀隆様
櫻木 勇夫様
清田 栄一様
魚谷 秀文様

【寄付物品】

三気の里家族会
林田 鶴代様

【寄付】



©2020 KAWAII



【後援会ありがとうございます】
前田 克英様

井手上 昌子様
井上 ちえ子様
上田 タキ子様
岩切 美佐子様
東坂 富士代様
山本 住建様
OA テック様

編集後記

今年の立春は2月4日です。
暦の上ではもう春となります。
二十四節気の一つである立春ですが、旧暦では立春頃に新年を迎えていたため、この時期が新しい年の始まりだったということになります。
また、立春には2パターンあり、立春に入る日のみを指す場合と、二十四節気で次にくる雨水(うすい)までの期間(約15日間)を指す場合とあるそうです。
暦の上では春を迎えましたが、まだまだ寒い日が続きます。本当の春が来るのが待ち遠しいです。

吉田 理江

